

2026年5月9日

『みんなのスポーツ』5月号(No.523)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の5月号は「人口減少から考える地域スポーツの現代的課題と対応」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1) **アナザーストーリー 沖縄県浦添市教育委員会教育長 銘苅健氏** 19年間スポーツ推進委員であった方が、教育長になられた。その銘苅さんが言われるように、市民の暮らしや健康づくりに行政の縦割りではない。「点を繋いで線にする」これがスポーツ推進委員の役割であること、私も同感に考えています。私の町内会では「お達者教室(先月の出来事:スピーチ、歌・運動やゲーム・ミニミニ健康講座)」を介護施設と連携して毎月第一月曜日に行っている。可能な限り出向き準備や後片付けも行っている。私自身も横浜市のレクリエーション協会の講座(座学と実技で150時間強)で学んでおり、機会があれば行っていきたい。参加者の健康のために枠組みを超えて活動ができればと思っています。
銘苅さんが言われるように、**究極的には「ウェルビーイング(幸福)」です。**自分が何かを仕掛けて、誰かが「できた!」と喜んでくれ笑顔を見るのが私も頑張れることです。
常にアンテナを張っておくことが大事で、地域の人に声をかけ、何気ない会話の中から、「ニーズ」を拾い上げ、何を求めておられるかを肌で知り、応えられる技術と自信を持って取り組んでいきたいと思います。
- (2) **理論1 人口減少から考える 地域スポーツの現代的課題と対応 みんなのスポーツ編集部** 人口減少・少子化問題に小見出しに目が行きました。横須賀市も企業は地方に移転・事業所の閉鎖、東京から1時間かからない街なのに急激に人口が減少。その街のさらに交通の便の良くない、武山地域に在住。西地域には今、中学校は3つあるが、10年後は1つになるのではないかとよくささやかれています。スポーツ推進委員の学区・定数や活動の在り方・諸課題問題を討議していかなければなりません、今月17日に事務局と3役で討議を行い、その後みなさんにも呼びかけますので参画してみたい方は加わっていただけませんか? 一緒に考えてみましょう。
- (3) **スポーツ推進委員リーダー養成講習会** この記事はコロナ禍の時、日程の延期・変更が何度かあり私も実際に受講経験があり、60数名の北海道から沖縄までの仲間と学んだ当時の記憶がよみがえってくる。今月号は講義の場面の模様がまとめられたものである。柳沢専務理事から閉会式で今回の講習会で得た情報を地元を持ち帰り、地元の現状や直して欲しい点など伝えてほしい、**黙っては何も変わらない、受講の方が大事な役割を持っている**と強いエールを送られた点には共感を持ちます。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

*本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。特にここ1、2年で冊子内容が読者参加型の編集になりました。

活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上